

まだ書きたいことが一杯あるが

今朝、ほんの一瞬だったが、雪の結晶を見た。
黒いカバンの上で、白い結晶が、くずれ溶けるのを見て、
僕は、はかなく散る、白い花を見る思いだった。

空中の水蒸気は小さな氷の粒になり、
長い時間かけて空中をさまよい、
それが、どんどん、くっついて結晶を作る。
その雪の結晶が、生まれて、消える迄の時間は、
僕等の人生と比べれば、ほんの一瞬だ。

雪の結晶は六角形だけど、その形は一つとして、
同じ大きさ、同じ模様のものはない。
僕等が一人一人、違う人間であるのと同じ様に、
雪の結晶も、一つ一つが違う。

すべて形あるものは、いずれ形がなくなる。
しかし、形と形が合体し、新しい別の形を生んで、
古い形はつぶれ、消えて行くものもある。
それをすべて、生命と僕はあえて呼びたい。
花の命は短いけれど、毎年、新しい花が開く。

雪の結晶を、花の様な、はかない生命体と見なすなら、
僕等も、花と同じ、一個の生命体と見る。
僕等の人生も、一輪の花の人生と同じなのだ。
あの子も、一輪の花と同じなのだ。
短く、はかない、しかし、美しい、この人生を、
僕は花のごとく生きて行きたい。
そして、その美しさを、花の絵や写真の様に残したい。
僕達の人生を、絵や文字や写真の形で、永遠に残したい。